

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和6年 7月 8日(月) 発行人：校長 森内 秀学

子どもの「たい」を実現する～ジュニア「コージーズ」始動～

「失礼します。校長先生に用があって来ました。入ってもよろしいでしょうか。」

そう言いながら、右の子どもたちが校長室にやってきました。この顔ぶれ、1年生やその保護者以外の方には、見覚えがあるのではないのでしょうか。そうです。昨年度、「子どもお悩み相談所(仮称)」を立ち上げた子どもたちです。

彼らの仕事は、職員室前に置かれた「おなやみボックス」で子どもたちから悩み相談を受け付け、相手の都合に合わせて話を聞くというもの。メンバーは去年と同じですが、今年のクラスはバラバラです。



その子どもたちが私に何の用だったかという、「今年も活動をやりたいと思っているのだが、1年生を含めて改めてみんなに活動内容を周知するための放送をしたい。ついては、その読み原稿を見てほしい。」ということでした。何という頼もしさでしょうか。

今年は自分たちの呼び名も、昨年度から子どもに寄り添うボランティアスタッフとして来ていただいている「先輩」のグループ名に習い「コージーズ」にするそうです。「そっちがしっくりくる」とのことでした。きっと「先輩」も喜んでくれることでしょう。

原稿の手直しが終わって校長室を出ると、ちょうどそこに、昨年度この子たちにカウンセリングのやり方を指導してくださった、スクールカウンセラーの林田先生がいました。

私が、「あの子たちは、今年もがんばるそうですよ。」と言うと、林田先生は、「それを許してくれる学校が素晴らしいですね。」とってくださいました。

今後も、子どもの「やりたい」を実現する学校でいられるよう、職員一同がんばります。



放課後子ども教室 大盛況

時津小には、「学校支援会議」という組織があります。教職員やPTA会長、地域の方が委員となり、子どもたちのよりよい健全育成のためにどんな取組ができるのか話し合ったり、サポートしたりする組織です。

その組織の取組の一つが、毎週水曜日の放課後に行われている「放課後子ども教室」です。今年は、26人もの子どもが申し込み、その全員が毎週熱心に参加しています。参加率がこんなに高いのは、スタッフや友達から教えてもらうことで、「分かった!」「できた!」という喜びを味わえるからでしょう。

子どもの喜ぶ姿は、スタッフのモチベーションだそうです。子どもに自信をもたせるこうした取組は、子どもに元気を与え、学校を楽しいと感じさせる原動力になりますね。